

# 隠れ家珈琲店の売り上げ向上を狙う オリジナルギフト、持ち帰り品の開発

## 課題

## 店内飲食の伸びの頭打ちと 冬場の売り上げ減少への対策を

三陸自動車道三滝堂ICから車で約6分、登米東和ICから10分、街道から外れた沢治いの細い道をのぼった川の畔に建つ瀟洒なログハウス風の喫茶店「coffee ippo」。有名なコーヒー店に4年間住み込みで修業し、中米のグアテマラ、エルサルバドル、パナマのコーヒー農園視察の経験をもつ店主が、実家を改装して2010年5月に開業した。人里離れた山あいでありながら、多い日には1日に100人が来店する人気店だ。

自家焙煎珈琲を日本に根付かせた第一人者の薫陶を受け、その流れを汲む栃木の人気店で修行を積み、日本有数の名店「カフェバウハ」から仕入れた良質な生豆、手作業で選別し、丁寧に自家焙煎して供する珈琲は評判となり、順調にリピート客を獲得。売り上げは右肩上がりでも推移してきた。

しかし、開店から8年が過ぎ、課題も明確になってきた。店の客席数は18席。この座席数では、店内飲食のみで現状以上の売り上げ増を目指すことは難しい。また、積雪や路面凍結の影響で冬場は来店客が減少し、例年2月は夏場の半分近くまで売り上げが落ち込むという問題もある。

さらに、現在使用している焙煎機は手作業の部分が多く、スタッフ任せにできないため店主が焙煎機から離れられず、負担も多いうえに営業や接客にも支障があると感じていた。

## 支援

## 各種補助金を活用して 無理のない経営計画を作成

店内での飲食の売り上げの伸び悩みについては、みやぎ北上商工会の支援で小規模事業者持続化補助金活用。オリジナルギフト商品を開発した。これまでも持ち帰り用の自家焙煎珈琲豆の販売は行ってきたが、新たにカップオンコーヒーをラインナップ。パッケージには同店をイメージしたイラストをあしらったデザインを採用し、ギフトをもらった人に店への興味をもってもらえるようにした。この結果、贈答品販売額は前年比242%増の60万円となった。さらに持続化補助金で業務用冷凍・冷蔵庫を購入。鮮度を維持したまま在庫を抱えることができるようになった。

冬場の売り上げの落ち込みについては、店がある登米市の補助事業ビジネスチャンス支援事業を活用して、ギフトカタ



オリジナルギフト商品のカタログを作成

ログの作成、ギフトパッケージのリニューアル、ギフトのラインナップの充実など、年間を通じて売り上げの安定化を図る環境を整えた。

焙煎は、マル経融資と業務改善助成金を活用してセミオート機能付き大型焙煎機を購入することで生産性の向上を実現。店主が営業や接客にあてる時間を確保することができた。

今後は、自家製パンやケーキの販売、法人化も視野に入れ、意欲的に事業に取り組んでいきたいと意気込みを見せている。

## 支援の経過

期間	支援内容
2014年5月～	販売戦略策定・ギフト商品開発
2016年6月～	ギフトカタログ制作
2017年1月～	大型焙煎機購入に向けた計画策定
9月	マル経融資、大型焙煎機購入

## 会社概要

会社名：自家焙煎珈琲店 coffee ippo  
住所：宮城県登米市東和町米谷字南沢156-1  
電話番号：0220-42-3060  
URL：https://www.coffee-ippo.com  
代表者名：嶋村一歩  
創業年：2010年  
従業員数：2名  
商工会名・担当者名：みやぎ北上商工会・小番真悟